

証券コード：2315

2026年10月期 第2四半期(中間期)

決算補足説明資料

株式会社CAICA DIGITAL

2026年6月15日

INDEX

| | | |
|----|-------------------|----|
| 01 | 当社概要 | 03 |
| 02 | 当期の要点 | 12 |
| 03 | 2026年10月期 第2四半期概要 | 15 |
| 04 | 2026年10月期 通期業績見通し | 22 |
| 05 | トピックス | 28 |
| 06 | 補足説明 | 41 |

当社概要

Corporate Overview

01

02

03

04

05

06

会社概要

持株会社

| | |
|-------|--------------------------------|
| 会社名 | 株式会社CAICA DIGITAL |
| 上場市場 | 東京証券取引所スタンダード市場 証券コード：2315 |
| 事業内容 | グループ会社の管理運営 |
| 設立 | 1989年7月14日 |
| 所在地 | 東京都港区南青山五丁目11番9号 |
| 代表 | 代表取締役社長 鈴木 伸 代表取締役副社長 山口 健治 |
| 資本金 | 50百万円 |
| 連結売上高 | 5,195百万円（2025年10月期） |
| 決算期 | 10月 |

主要子会社

| | |
|------|---|
| 会社名 | 株式会社CAICAテクノロジーズ |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ITサービス事業 システムインテグレーション事業 DXソリューションサービス事業 |
| 会社名 | 株式会社カイクファイナンシャルホールディングス |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> INO Fine運営事業 カスタマーディベロップメント事業 |
| 会社名 | 株式会社ネクス |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 各種無線方式を適用した通信機器の開発、販売 上記にかかわるシステムソリューション提供及び保守サービス |
| 会社名 | 株式会社善光総合研究所 ^{※1} |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 介護業界のDX化支援のためのコンサルティング業務 |

1. 株式会社善光総合研究所（以下、善光総研）は2026年2月6日付で子会社化しております。
なお、2026年10月期第3四半期より損益計算書を連結する予定です。



労働集約モデルからソリューションモデルへの事業転換

当社グループはこれまで、エンジニアの人数や稼働量に依存する労働集約型ビジネスが売上の多くを占めておりました。一方で、生成AIをはじめとする技術革新が急速に進展する中、人的稼働に依存した収益構造から、より高い付加価値を創出するソリューション提供型モデルへの転換を進めております。

2025年10月期には、新規事業であるDXソリューション領域を大きく拡大するとともに、M&Aによりネクスを子会社化いたしました。さらに、2026年2月には善光総合研究所の子会社化も実現しております。また、DXソリューション事業・セキュリティソリューション事業などのソリューション事業をCAICA DIGITALに吸収分割により承継することで、重点領域への経営資源配分を明確化し、グループとしての推進体制を一層強化してまいります。

2026年10月期は、エンジニアのリスキリングを戦略的に推進するとともに、ネクスおよび善光総合研究所を中核として、コンサルティング機能とITを融合させたソリューション展開を加速してまいります。これにより、グループ横断での高付加価値サービスの創出と収益性の向上を図ってまいります。

代表メッセージ

経済安全保障におけるサイバーセキュリティの重要性増加や、生成AIの急速な進展により、企業のIT投資は高度化・複雑化の一途をたどっております。当社グループを取り巻く事業環境も大きく変化しており、従来の労働集約型のSIモデルのみでは、持続的成長を実現することが困難な局面を迎えていると認識しております。こうした環境変化を前向きに捉え、当期より事業ポートフォリオの転換を本格的に推進してまいります。

2026年10月期第1四半期より、前期末に取得した株式会社ネクスを連結子会社として加え、新たなグループ体制でのスタートを切りました。ネクスが有する通信・IoT領域における技術基盤および顧客ネットワークは、当社既存事業との親和性が高く、ソリューション提供力の高度化および付加価値向上に資するものと考えております。さらに、2026年2月に子会社化した株式会社善光総合研究所も当社グループに加わり、コンサルティング領域における知見・顧客基盤が新たに加わりました。また、DXソリューション事業・セキュリティソリューション事業などのソリューション事業をCAICA DIGITALに

吸収分割により承継することで、重点領域への経営資源配分を明確化し、グループとしての推進体制を一層強化してまいります。これらの施策により、グループ全体の事業領域拡張と収益基盤の多様化を図ってまいります。

2026年10月期は、従来の人的リソース依存型モデルから脱却し、ソリューション型ビジネスへの転換を進める重要な一年と位置付けております。当社は、AIの台頭を大きなチャンスと捉えており、AIを活用することで競争力を強化し、付加価値の源泉を「人月」から「コンサルティング・ソリューション・サービス」へと進化させてまいります。そのための組織体制整備、人材育成、M&Aを着実に推進してまいります。

新たなグループ体制のもと、中長期的な企業価値向上を最重要課題として、収益構造の変革と持続的成長の実現に全力で取り組んでまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

CEO代表取締役社長 鈴木 伸



当社のセグメント

ITサービス事業

株式会社CAICAテクノロジーズ

金融サービス事業

株式会社カイカフィナンシャルホールディングス

IoT関連事業

株式会社ネクス

介護DX事業

株式会社善光総合研究所

第3四半期より損益計算書を連結予定

ITサービス事業について

ITサービス事業は当社の主力事業として売上の中核を担い、安定的に収益へ貢献してまいりました。今後は事業拡大を継続するとともに、AIの進展を見据え、人的リソース依存型モデルから高付加価値なソリューション提供型モデルへの転換を推進いたします。その中核を担うDXソリューションを成長ドライバーと位置づけ、さらなる拡大を図ってまいります。

ITサービス事業

ブロックチェーン等の最先端技術や豊富な開発実績を活かした自社開発のITサービスを販売しております。企業のデジタル・トランスフォーメーション（DX）化を実現します。

システムインテグレーション事業

金融、ポイント・決済、公共・官公庁、EC・通販をはじめとした業界領域で培ったノウハウを基に、システムの企画検討から、設計・構築、運用・保守に至るまで、フロント、バックオフィスから基幹系システムを問わず最適なシステム提供をいたします。

DXソリューションサービス事業※1

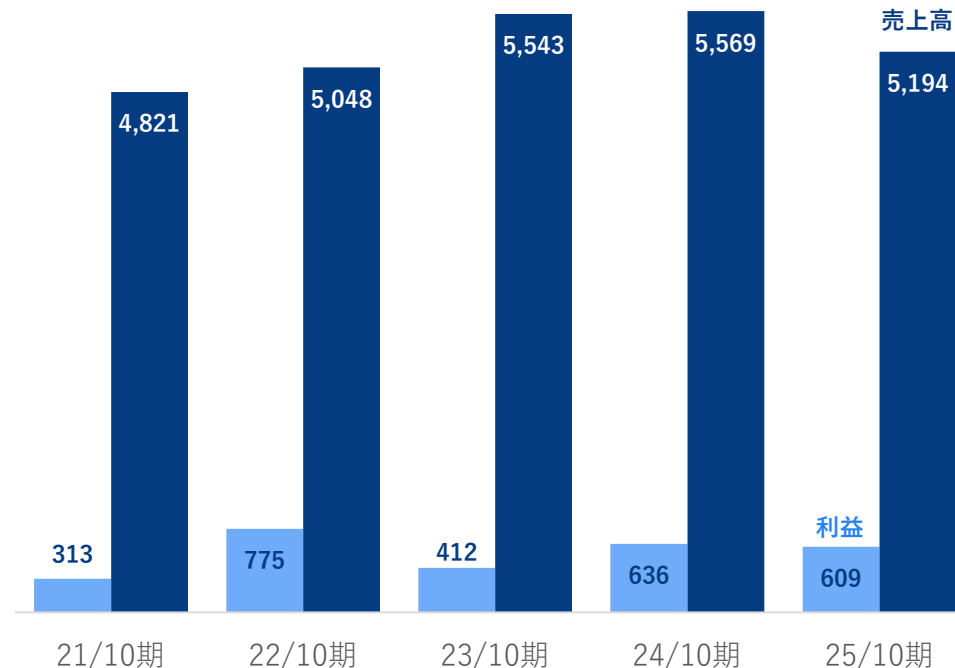
AIを活用したDXソリューションの開発を手掛けるベンダーと提携し、DXソリューションプロダクトを提供します。

▶ [DXソリューションサービス詳細42ページへ](#)

- 2026年7月1日より持株会社CAICA DIGITALの直下に移行の予定。
但し、報告セグメントについてはITサービス事業を継続の予定。

セグメント売上高・利益推移※2

(百万円)



- セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載

金融サービス事業について

金融サービス事業は当社グループにおけるWEB3戦略を展開してまいりました。2023年10月期末に暗号資産交換所等を営む子会社を売却したことにより、収益構造は大きく改善しております。現在は新規事業創出に向けた先行投資フェーズと位置づけ、事業推進しております。

INO Fine運営事業

審査制NFT販売所(一次販売)の運営を行います。INO Fine が審査することで厳選された NFT を安心してご購入いただけます。さらに、クレジットカード決済対応可能で、暗号資産をお持ちでない方でも簡単にNFT を購入頂けます。暗号資産やウォレットが不要でNFT が所有できる「NFT カード」も販売中。

▶ NFT漫画プロジェクトの取り組み 33,34ページ

暗号資産発行・運用事業

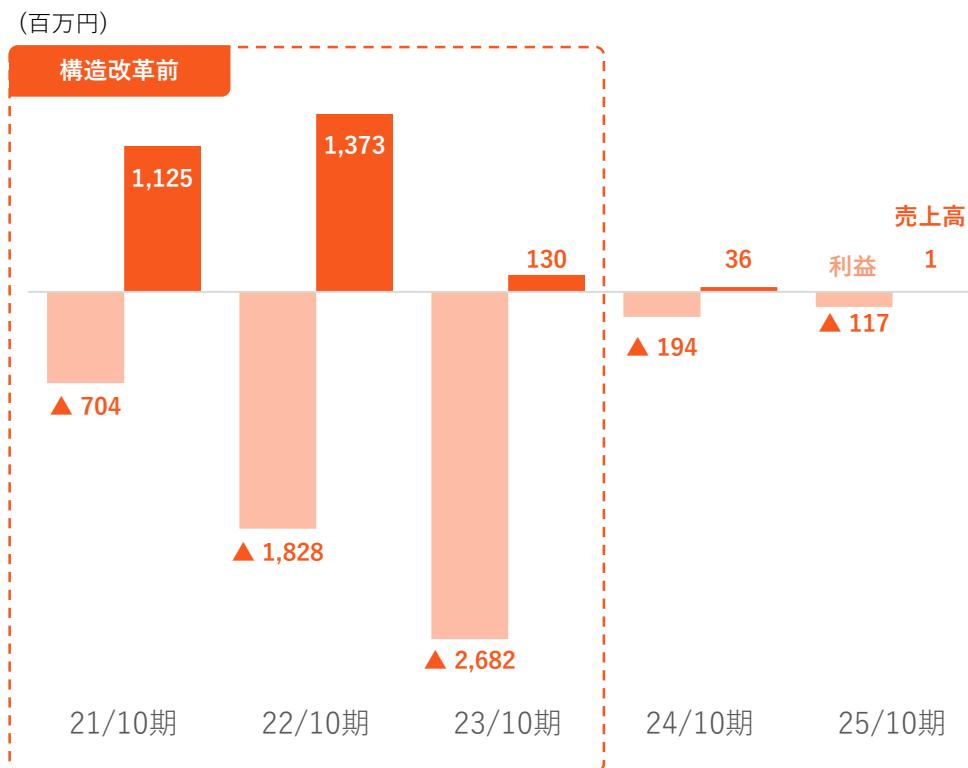
自社発行暗号資産カイカコインを活用したサービス展開を行います。カイカコインのユーティリティ向上に伴う需要の増加により収益の最大化を図ります。

▶ 当社発行暗号資産 カイカコイン概要 44ページ

カスタマーディベロップメント事業

暗号資産や金融業界をはじめとした様々な業界に適応可能な顧客対応事業です。ご相談いただいた業務内容に合わせて、高水準のカスタマーサポートチームを提供するほか、カスタマーとの良好な関係構築を支援いたします。

セグメント売上高・利益推移



1. セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載

IoT関連事業について

IoT関連事業では通信技術を基盤としたテクノロジーソリューションを展開し、産業機器の遠隔監視や重要インフラのバックアップ用途で信頼されるデータ通信端末を主力としています。テレマティクス事業では、OBD II 端末を活用した車両データにより安全運転指導や業務効率化を支援。さらにエッジAI領域に注力し、画像解析や5G/RedCap対応製品を通じてDXを推進しています。

テレマティクスソリューション

OBD II を活用し、車両の速度・燃費・位置情報などのデータをリアルタイムで取得・分析する車両管理ソリューションを提供します。多様な車種や特殊車両にも対応し、フリートマネジメントや車両最適化など幅広い用途に活用可能です。

▶ 製品概要 45ページ

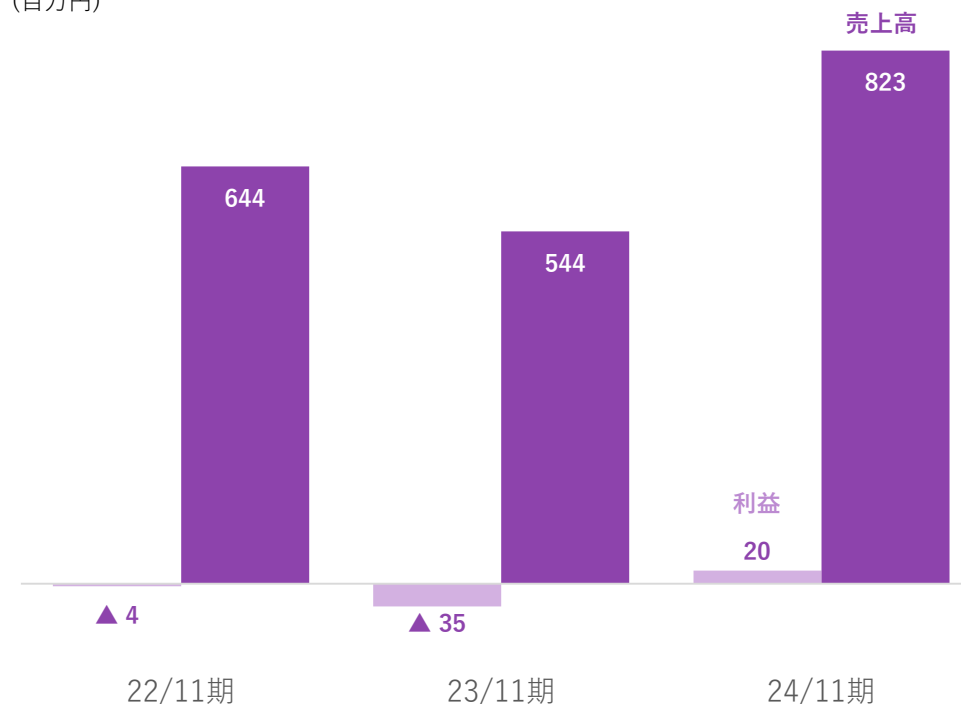
M2Mソリューション

各種機器に無線通信機能を組み込み、機器同士がネットワークを通じて自動的に情報を交換・制御するM2Mソリューションを提供します。車両管理や自動販売機の在庫管理、設備の遠隔監視、メーター検針など幅広い分野で業務効率化を実現します。

▶ 最新の取り組み 32ページ

セグメント売上高・利益推移

(百万円)



1. 当社連結子会社化する前の数値を記載

介護DX事業について

介護DX事業は介護現場のDX化推進を目的として、現場起点で開発された介護アプリケーション「SCOP」の開発・販売等を行っております。当社の培ってきたAI、ブロックチェーン技術、株式会社ネクスが培ってきたIoT、通信技術を融合することで、記録・請求・見守り業務を一体的に高度化し、介護現場の業務効率向上と付加価値創出を図ってまいります。

介護DX事業

介護の現場業務の効率化を実現するソフトウェア（SCOP）の開発販売

デジタル中核人材育成事業

介護職員の知識・スキルを向上するための認定資格（スマート介護士）の運営

コンサルティング事業

介護事業者のサービス向上やオペレーション効率化に向けた経営支援サービス

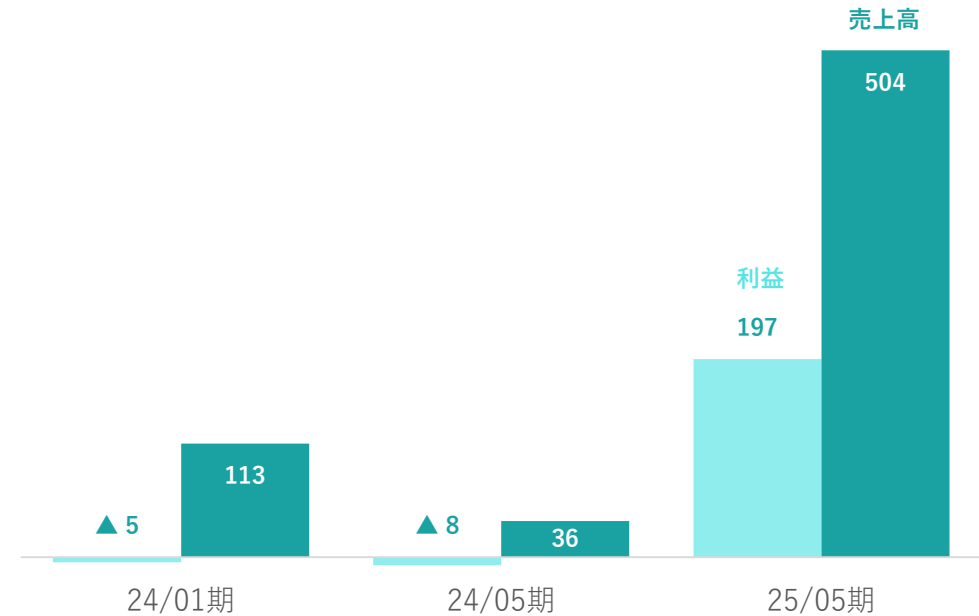
介護機器メーカー開発支援事業

介護現場の知見を活用した介護テクノロジーの企画、開発及び実証支援サービス

▶ 事業詳細46ページ

セグメント売上高・利益推移

(百万円)



1. 当社連結子会社化する前の数値を記載

当期の要点

Key Highlights

01

02

03

04

05

06

善光総研の子会社化に伴う会計処理について

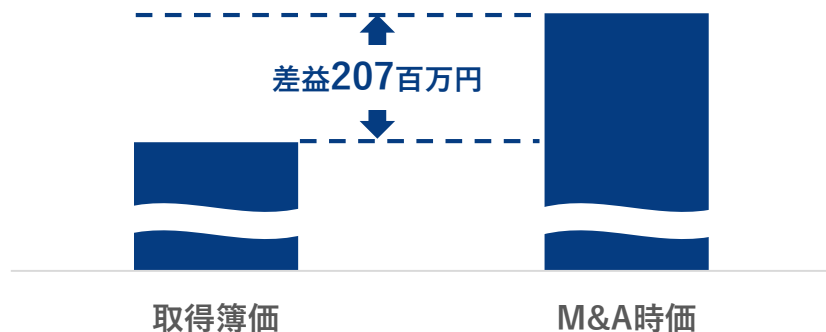
善光総研の子会社化に伴い、段階取得に係る差益207百万円を特別利益として計上しました。一方で、企業結合日時点における適正な評価額との差額207百万円を減損損失として特別損失に計上しました。なお本減損は当社株価上昇に伴う会計上の取得価額の増加によるものであり、善光総研の事業価値の低下によるものではありません。

特別利益

+207百万円

段階取得に係る差益

当社の連結子会社であるカイカフィナンシャルホールディングスが、追加取得以前から保有していた善光総研株式について、追加取得時点の時価により、再評価を行ったことによるものです。



特別損失

▲207百万円

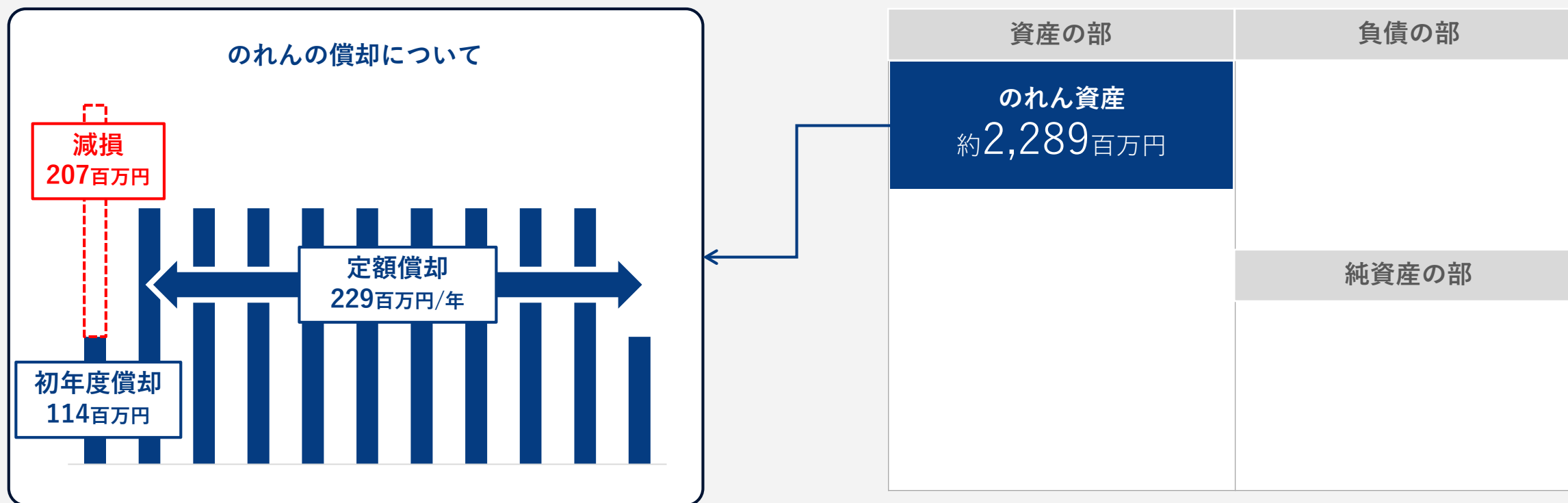
減損損失

株式交付による子会社化の決定公表後の当社株価の上昇により、善光総研の株主に交付される当社株式の価値が増加し、企業結合日時点における適正な評価額との差額を減損損失として計上したものです。



善光総研のM&Aに伴うのれんの計上と償却について

善光総研のM&Aに伴い、のれん2,497百万円が発生し、当期に207百万円を減損損失として特別損失に計上後、中間期末時点の貸借対照表に2,289百万円のをれんを計上しました。今後10年間にわたり定額償却する予定です。なお、本件M&Aは新株発行による株式交付スキームにより実行したため、キャッシュアウトは伴っておりません。



2026年10月期 第2四半期概要

Q2 FY2026 Overview

01

02

03

04

05

06

2026年10月期 第2四半期 累計業績ハイライト

売上高

前年同期 2,543百万円

2,989

百万円


営業利益

前年同期 25百万円

52

百万円


中間純利益※

前年同期 551百万円

52

百万円


※ 親会社株主に帰属する中間純利益

連結業績

- 売上高は、ITサービス事業の堅調な推移およびIoT関連事業の連結寄与により、堅調に推移
- 善光総研の子会社化に伴い、段階取得に係る差益207百万円を特別利益、減損損失207百万円を特別損失として計上

ITサービス事業

- 金融機関向け開発は、既存システム刷新やAI関連投資への関心を背景に堅調に推移。非金融向けはDX・業務効率化・セキュリティ需要が高水準で推移する一方、人材確保面が制約要因。
- DXソリューション事業は一部案件で計画案件が受注に至らなかったが、コンサルティング案件は引き続き堅調
- 生成AIを活用した「AI駆動型開発」サービスを開始し、開発効率化ニーズへの対応を強化

金融サービス事業

- 暗号資産の評価損により、セグメント損益は営業損失を計上した一方、前年同期から改善。

IoT関連事業

- Web3型M2M基盤や5G RedCap対応端末を軸に、IoTソリューション型ビジネスへの転換を推進

2026年10月期 第2四半期（中間期） 連結業績サマリー

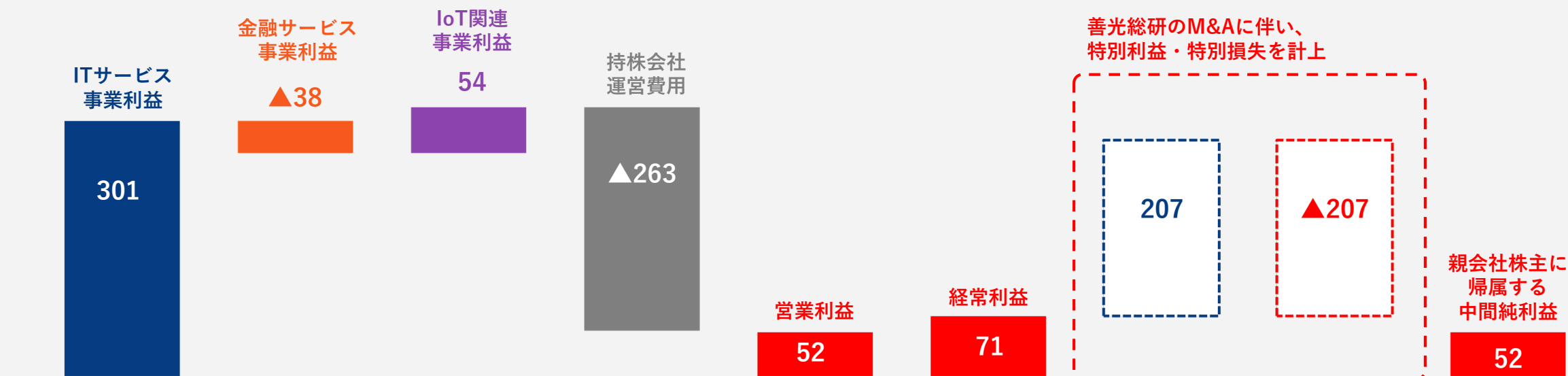
第2四半期累計では、ITサービス事業およびIoT関連事業が堅調に推移し、売上高・営業利益・経常利益はいずれも前年同期を上回って推移しました。善光総研の損益寄与は第3四半期からを予定しており、通期見通しを据え置きとしております。

| | 25/10期 2Q実績 | 26/10期 2Q実績 | 前期比 | | 通期見通し | 進捗率 |
|--------------------------|----------------|----------------|------|---------|-------|-------|
| 売上高 | 2,543 | 2,989 | +446 | +17.5% | 6,166 | 48.5% |
| 売上総利益 | 398 | 569 | +170 | +42.7% | - | - |
| 売上総利益率 | 15.7% | 19.0% | - | - | - | - |
| 営業利益 | 25 | 52 | +26 | +103.2% | 107 | 49.0% |
| 営業利益率 | 1.0% | 1.8% | - | - | - | - |
| 経常利益 | 32 | 71 | +39 | +120.0% | 107 | 67.0% |
| 親会社株主に 帰属する 中間期純利益 | 551 | 52 | ▲498 | -90.4% | 91 | 58.2% |

各利益の要因について

ITサービス事業およびIoT関連事業は堅調に推移し、利益面でプラスに寄与しました。善光総研のM&Aに伴い、207百万円の特別利益、減損損失による特別損失207百万円をそれぞれ計上し、親会社株主に帰属する中間期純利益は52百万円となりました。

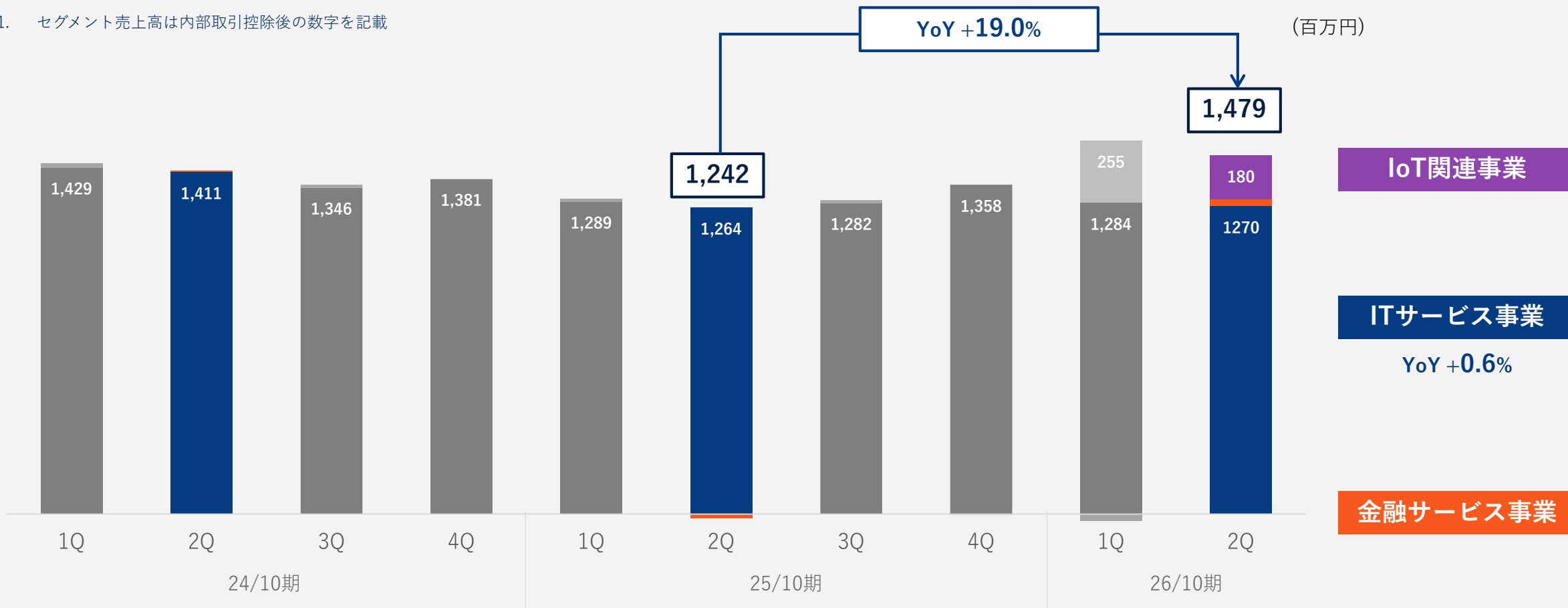
(百万円)



四半期毎の連結売上高推移※1

ITサービス事業は金融機関案件が堅調に推移した一方、AI関連プロジェクトの立ち上げ等に取り組んだものの、既存の暗号資産関連プロジェクトの縮小影響を補うには至らなかったことなどを要因として、概ね前年同期と同水準で推移しました。IoT関連事業においてはグループシナジーを活かした複数の事業の立ち上げを図る中で、堅調な推移となりました。

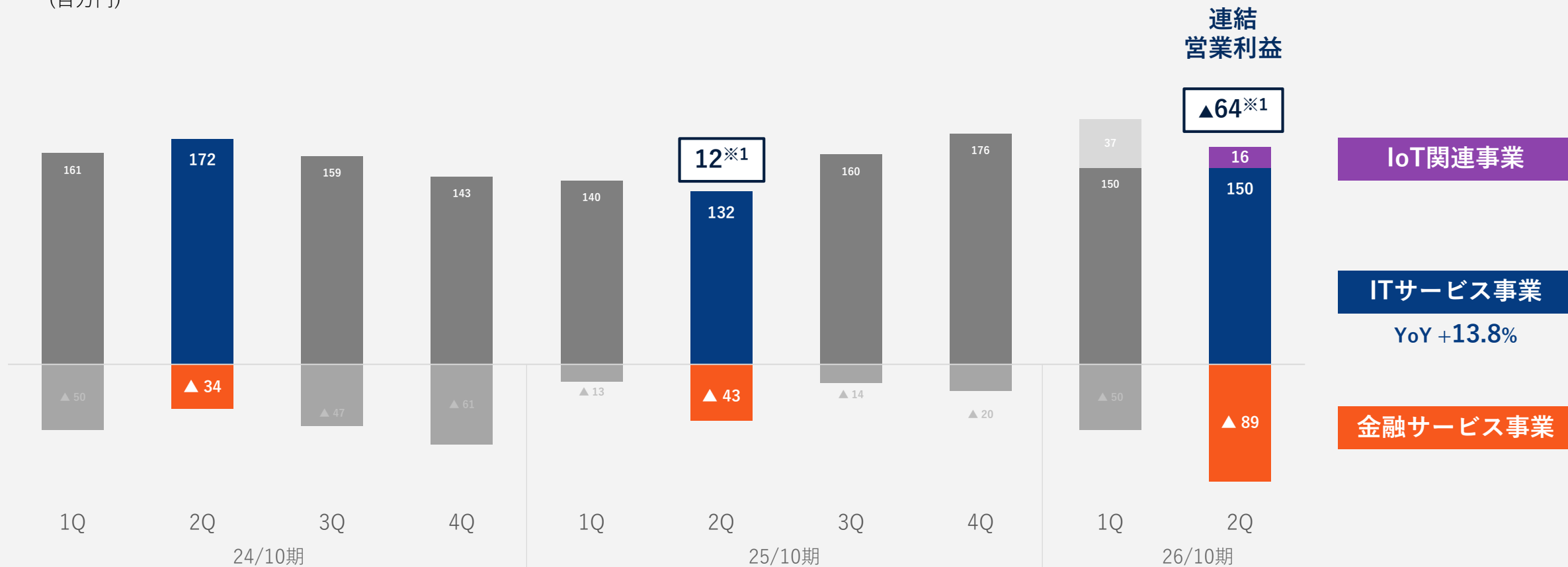
1. セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載



四半期毎のセグメント損益の推移

ITサービス事業は例年通りの堅調な推移となった中、今後AI活用やビジネスパートナー開拓によりセグメント利益の拡大をはかります。金融サービス事業においては保有する活発な市場が存在する暗号資産の評価損を主因として、低調な推移となりました。

(百万円)



1. 持株会社の運営費用を主とする全社費用を含む値を掲載しております。

連結貸借対照表の推移について

当中間期は、株式交付による善光総研の子会社化に伴い、株主資本が大きく増加するとともに、のれん2,289百万円を計上しました。また、同社の連結により、同社が保有するソフトウェア320百万円を無形資産として取り込んでおります。負債の増加は39百万円にとどまったことから、自己資本比率は88.8%となりました。

| (百万円) | 25/10期末 | 26/10期 2Q | 前期末比 | | 25/10期末 | 26/10期 2Q | 前期末比 |
|-------------|---------|--------------|--------|---------------|---------|--------------|--------|
| 資産の部 | 4,287 | 6,836 | +2,549 | 負債の部 | 676 | 715 | +39 |
| 内 現預金 | 639 | 934 | +294 | 内 有利子負債 | - | - | - |
| のれん | - | 2,289 | +2,289 | 純資産の部 | 3,611 | 6,121 | +2,510 |
| | | | | 内 株主資本 | 3,429 | 6,061 | +2,632 |
| | | | | 自己資本比率 | 84.2% | 88.8% | - |

2026年10月期 通期業績見通し

FY2026 Full-Year Outlook

01

02

03

04

05

06

2026年10月期 通期業績見通しサマリー

善光総研は第3四半期から損益計算書へ取り込む予定ですが、当期における業績寄与は限定的となる見込みです。また、DXソリューション事業では一部案件の進捗が当初計画を下回る見込みです。これらを総合的に勘案した結果、現時点では2026年10月期の通期連結業績予想を据え置いております。

| | 25/10期 実績 | 26/10期 業績見通し | 前期比 | |
|---------------------|--------------|-----------------|------|--------|
| 売上高 | 5,195 | 6,166 | +970 | +18.7% |
| 営業利益 | 70 | 107 | +36 | +52.9% |
| 営業利益率 | 1.4% | 1.7% | - | - |
| 経常利益 | 76 | 107 | +30 | +40.8% |
| 親会社株主に 帰属する当期純利益 | 166 | 91 | ▲75 | ▲45.2% |

2026年10月期 業績見通しの根拠

2025年10月期 業績動向

2026年10月期 業績見通し

連結

- 売上高はITサービス事業において新規事業であるDXソリューションサービスが伸長した一方、従来事業が軟調に推移した結果、減収。
- 当期純利益は特別利益の計上により大幅な増益。

- ソリューション売上高比率の拡大によりビジネスモデルの転換を図る。
- 売上高はITサービス事業におけるDXソリューションサービスのさらなる拡大に加え、株式会社ネクスの連結組み入れにより、増収を見込む。
- 当期純利益は前期の投資有価証券売却益の反動等により、減益を見込む。

ITサービス事業

- 従来事業は高収益案件の選別を積極的に進めた結果、減収。
- DXソリューションサービスは想定どおり堅調に推移したものの、一部ハードウェアの納品遅延により、売上計上の期ずれが発生。

- 前期に大きく成長したDXソリューションサービスのさらなる売上高の拡大を目指す
- 営業体制の強化により新規の高収益案件の獲得を図るとともに、既存顧客からの受注拡大を目指す。

金融サービス事業

- NFT漫画プロジェクトにおける事例拡大を通じて、NFTのユースケース拡大を実現。

- 引き続き成長投資フェーズと位置付け。
- NFT漫画プロジェクトのさらなる事例拡大を進めるとともに、新たなNFTユースケースの創出を図る。

IoT関連事業

(2025年10月に子会社化)

- ITサービス事業の既存顧客に対するクロスセルを起点とした販路拡大を通じて、中期的な業績成長を目指す。
- ソフトウェアに強みを持つCAICAグループとのシナジーを最大限に活用し、新たな製品開発を推進。

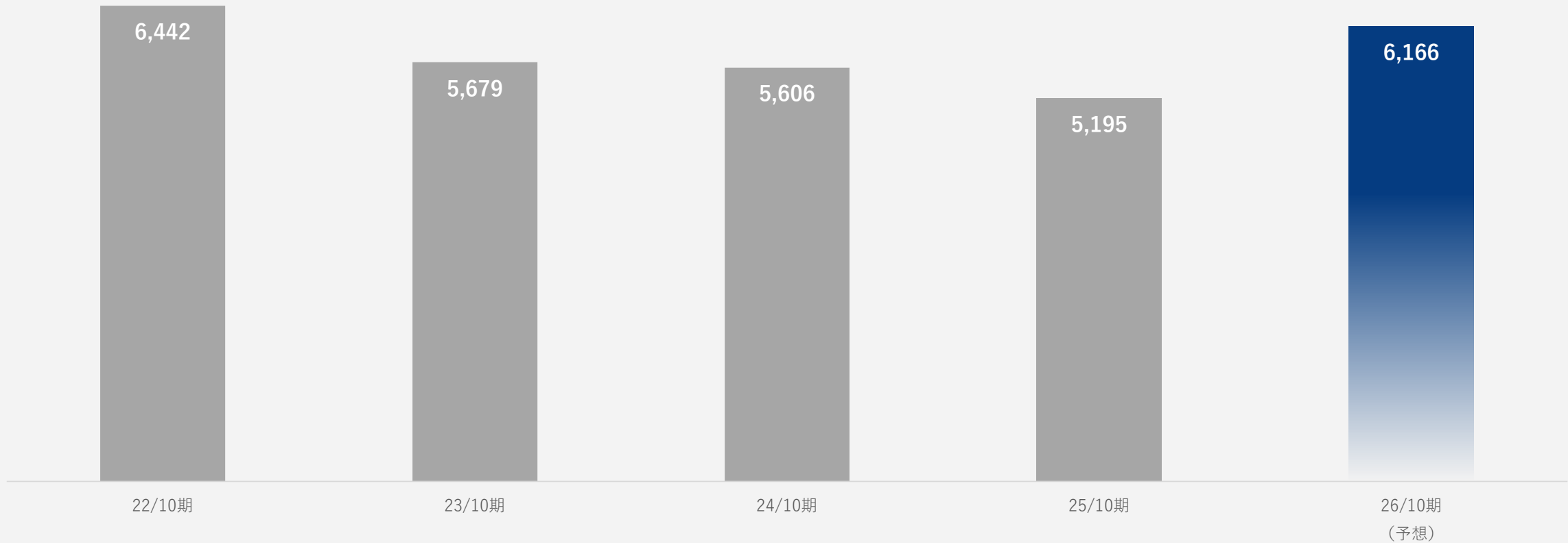
介護DX事業

(2026年2月に子会社化)

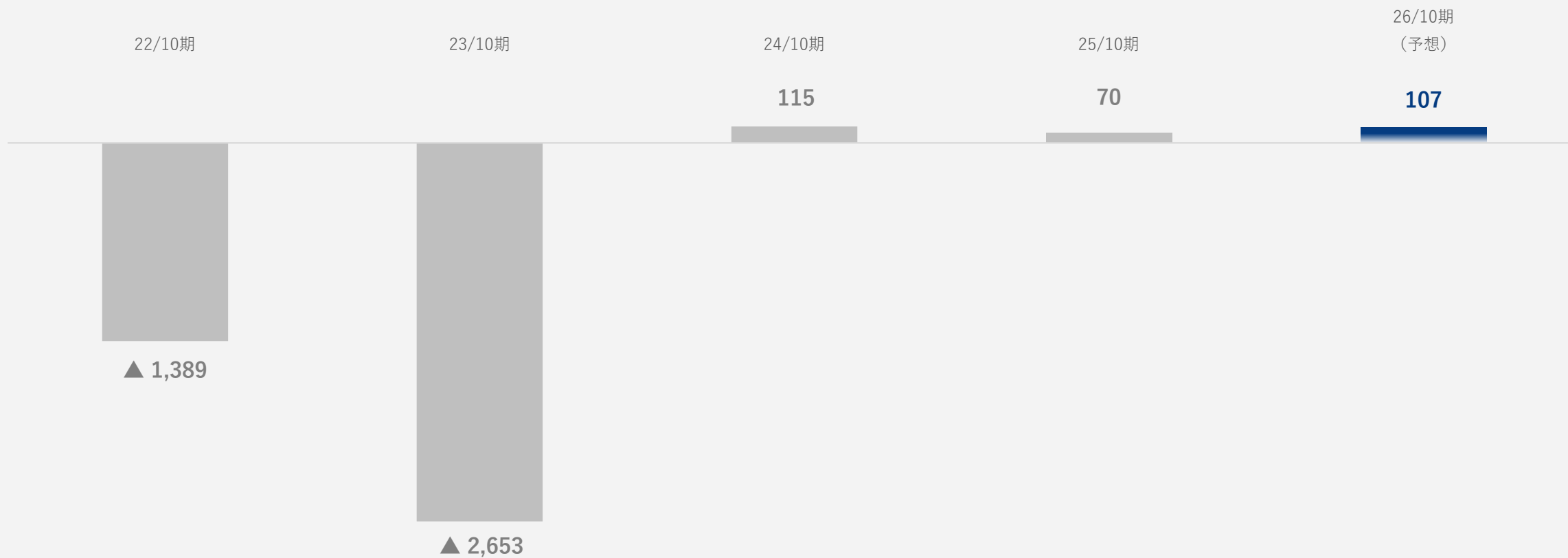
- ITサービス事業、IoT関連事業とのシナジーを活用し、スマート介護プラットフォーム「SCOP」の次世代化、AIを活用したデータ分析によるコンサルティングの拡大を目指す。
- 行政・現場・研究を結ぶ中核企業として、全国の介護事業者や自治体などに向けて、DX支援を進める。

通期売上高の推移と要因

善光総研の当社連結業績への寄与が2026年10月期第3四半期からとなることから、当期における業績寄与は限定的となる見込みであることに加え、CAICAテクノロジーズが担うDXソリューション事業において、一部案件の進捗が当初計画を下回る見込みであることによるものです。



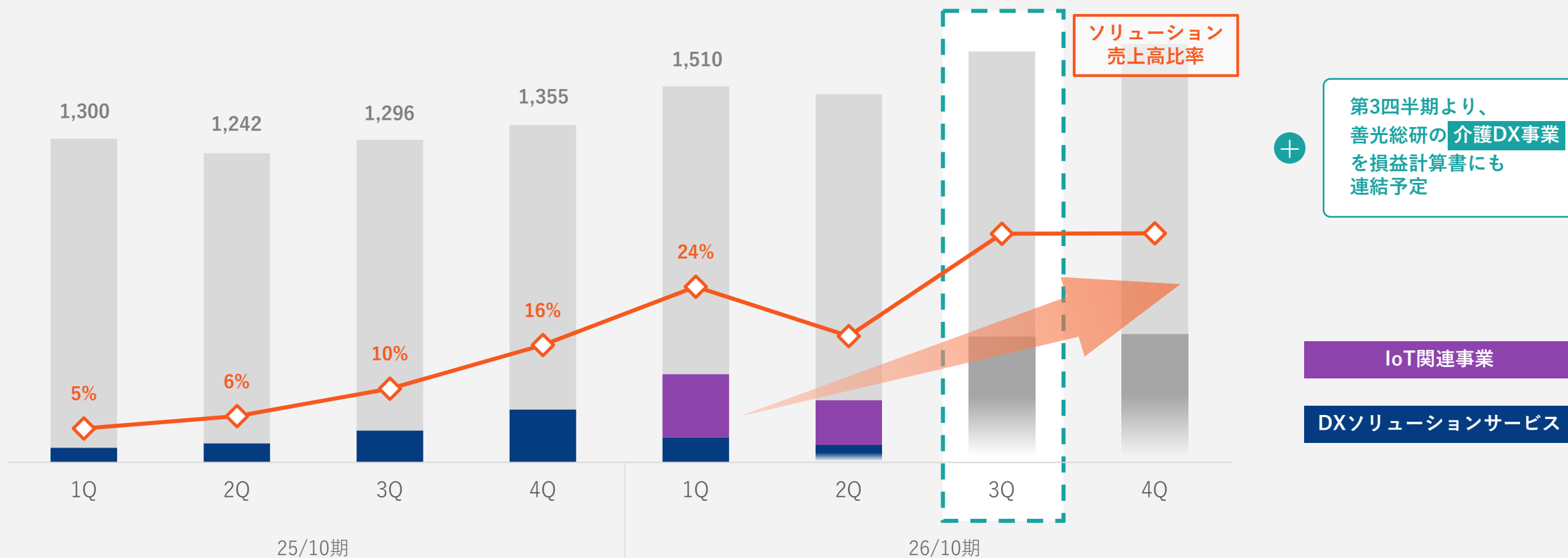
通期営業利益の推移と要因



- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2026年10月期第2四半期現在のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載は控えください。

四半期ごとの連結売上高に対するソリューション売上高比率の拡大について

当社はDXソリューションの拡大を通じ、従来の労働集約型からソリューション型へのビジネスモデル転換を進めております。今期初からIoT関連事業としてネクスが連結に加わりました。また善光総研は介護DX事業として、当中間期末時点では貸借対照表のみを連結、第3四半期から損益計算書も連結予定で、ソリューション型事業の売上比率は一段と高まる見込みです。



トピックス

Topics

01

02

03

04

05

06

AI資格を全社員が取得へ！

生成 AI 技術の急速な進展をふまえ、IT サービス事業に関わる全社員を対象として、AI 関連資格の取得を推進する施策を開始いたしました。本施策は、AI 活用力の向上を通じて、開発、生産性向上、提案活動、保守運用等の幅広い業務領域における AI 活用を促進するとともに、当社グループが推進する「AI 駆動型開発 (AI Driven Development)」を支える人的基盤強化を目的とするものです。



AI 駆動型開発 (AI Driven Development) サービス提供開始

最先端の生成 AI を活用した「AI 駆動型開発 (AI Driven Development)」を通じて、開発現場の課題解決とビジネス成長の加速を支援します。AI駆動型開発は単なる生成 AI ツールの活用ではなく、長年の開発実績に基づく業務知識・技術ノウハウを組み合わせた、高品質な開発支援サービスです。

CAICAテクノロジーズの特徴・強み

| 観点 | ★ CAICA テクノロジーズ | コンサル | 大手SIer 元請け | 二次請け 以下 | AI専門 企業 |
|---------------|--------------------|------------|--------------------|-----------------|--------------------|
| 生成AI 活用 | ● 全工程で活用 | △ 一部活用 | ● 自社製品AI化 | × ほぼ未対応 | ● 強み |
| 基幹系 開発構築実績 | ● 50年超の実績 | △ 知見あり | ● 実績豊富 | △ 部分的 | × ほぼなし |
| 提供先企業 | ● 中小～大企業 | ● 大企業中心 | ● 大企業中心 | △ 中小企業 中心 | △ スタートアップ 中心 |
| 対応範囲 | ● 要件定義～ 運用保守 | ● 上流中心 | ● 上流・運用 保守中心 | △ 開発中心 | △ 開発・PoC 中心 |
| コスト | ● リーズナブル | × 高コスト | × 高コスト | ● 低コスト | △ 中～高コスト |

● = 対応可・強み △ = 部分対応・限定的 × = 非対応・弱み

※本表はCAICAテクノロジーズの業界経験および一般的な市場傾向に基づく概念的な比較です。個社の状況により異なる場合があります。

CAICA テクノロジーズ、DID/VC アプリの社内試行を開始

ITサービス事業のCAICAテクノロジーズは、分散型ID（DID）および検証可能な資格情報（VC）を活用したデジタルIDアプリの社内試行を開始しました。社員の表彰実績、デジタル名刺、技術経歴などをVCとして管理し、自己主権型IDを基盤とした次世代社内DXの実証を進め、第一段階の検証を完了いたしました。

DID/VCアプリ 社内試行を完了

DID発行・VC付与・確認フローの有効性を確認し、社外展開に向けた知見を蓄積



- 主な検証事項をすべて確認
 複数DID方式での発行・管理
 VCの取得・表示・確認
- VCテンプレート作成・発行・付与フロー
 クラウド・ローカル同期/オフライン対応

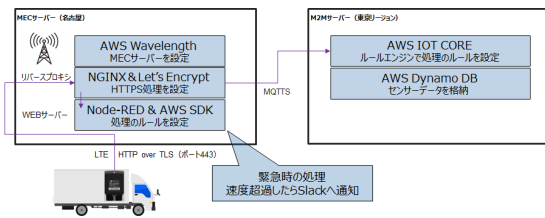
今後の展開

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>社内ユースケースの拡充 社内表彰・デジタル名刺・経歴管理・人事評価・社内連絡など</p> | <p>社外展開に向けた検証 実証で得た知見をもとに、実用性・運用性を検証</p> | <p>ソリューション展開 企業・金融機関・自治体向けにDID/VCソリューションを展開</p> | <p>デジタルトラストの実現 信頼性の高いデジタルID基盤で安心・安全な社会の実現に貢献</p> |
|--|---|--|---|

Web3型IoT統合ソリューション構想

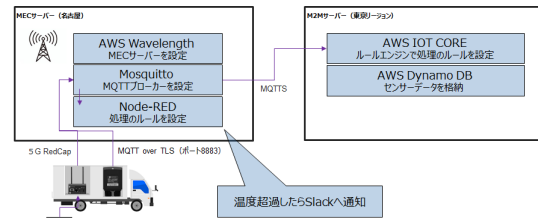
当社はデータの信頼性担保から、自律的な「価値の交換」を目指し事業創出を行ってまいりました。これまでの実証実験（PoC）の成果を統合し、ステーブルコイン基盤によるM2M決済の実現を目指します。

リアルタイム通信とクラウド連携



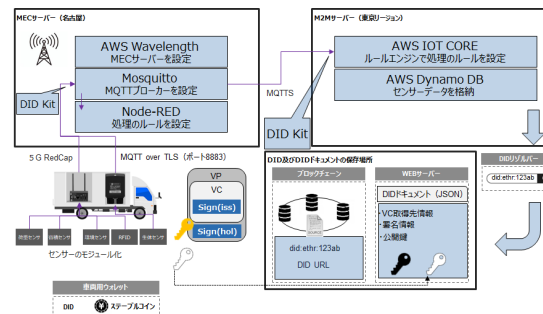
M2M (Machine to Machine) / MEC (Multi-access Edge Computing) 基盤とOBD II デバイスとの動作検証を実施。AWS WavelengthやNode-RED等を活用し、リアルタイム通信処理とクラウド連携の安定性を確認しました。

5G RedCap/MQTTによる通信高度化



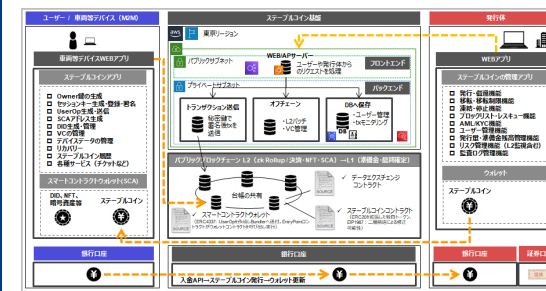
5G RedCapおよびMQTTプロトコルに対応させ、環境センサーデータのリアルタイム処理を検証。物流・倉庫環境における温度異常アラート等のM2M最適化を実現しました。

分散型ID (DID) による認証統合



全車両・デバイスにDIDを付与し、ブロックチェーン上での認証連携を実施。中央管理者に依存しない「自己主権型ID (SSI)」による、企業間を跨いだ信頼基盤を確立しました。

ステーブルコイン基盤PoCへ移行



DIDに紐づく車両データをVC (検証可能証明)・NFT化し、独自発行のステーブルコインで対価を支払う「M2M決済」の実証段階へ進みます。これにより自律的な「機械経済圏」のインフラを構築します。

NFT漫画プロジェクト作品一覧

金融サービス事業の新サービスNFT漫画プロジェクトは、第10弾までの企画を発表しております。今後も継続して新しい作品の誘致を進め、INO Fineの認知向上を図るとともに、取扱高の向上に努めます。

漫画家 休演因寛
初出版応援 プロジェクト

らいふるちゃん

Success!

電子漫画出版決定!

NFT漫画
第2弾

新人漫画家 Shino

作品名『Signals (仮)』

Success!

NFT漫画出版決定!

井上いちろう先生 参加
NFT漫画
プロジェクト
第3弾

参加
募集中!

井上いちろう先生 参戦!

注目作品 話題沸騰 公開中

プロジェクトページへ →

第4弾

『柁』

新人漫画家 小森しやお

販売期間 2025/08/15 15:00
~ 2025/11/14 23:59

プロジェクトページへ →

NFT漫画
プロジェクト
第5弾

ひとりいっしょ

PRESENTED BY 大原ななこ

販売期間 2025/08/27 15:00
~ 2025/11/26 23:59

プロジェクトページへ →

NFT漫画
プロジェクト
第7弾

会社員 玖島川の日常

kalshein
fujimacawa
no nichijo

販売期間 2025/10/15 15:00
~ 2026/01/14 23:59

プロジェクトページへ →

NFT漫画
プロジェクト
第6弾

新人漫画家 竹谷隼人が
出版を目指す!

『オールサイドデイズ』

販売期間 2025/09/24 15:00
~ 2025/12/23 23:59

プロジェクトページへ →

アフリカが日本を救った!

NFT漫画プロジェクト
第8弾

星野ルネ

販売期間 2025/12/02 15:00
~ 2026/03/01 23:59

プロジェクトページへ →

2026.4.14 Tue

支援募集、
本日スタート。

この物語を“本”にしよう。
漫画家 あはちよ 新作
『はじめは「あ」から。』

販売期間 2025/12/02 15:00
~ 2026/03/01 23:59

プロジェクトページへ →

目標達成!

電子書籍出版決定

NFT漫画プロジェクト 第10弾

『THE喫茶店』

販売期間 2025/12/02 15:00
~ 2026/03/01 23:59

プロジェクトページへ →

INO Fine GOODS STORE オープン

NFT漫画プロジェクトでは、予めより特設サイトにてグッズ販売を行ってまいりました。プロジェクトの進展に伴い参加作家・グッズの種類が増加したことを受け、すべてのグッズを一覧でご覧いただける公式オンラインストアとして「INO Fine GOODS STORE」を新たに開設いたしました。



The graphic features a dark blue background with several items: a white t-shirt with a manga-style illustration, a white tote bag with a similar design, a small white pouch, and another white t-shirt with a different illustration. The text 'INO Fine GOODS STORE' is prominently displayed in the center, with 'INO' in blue and 'Fine' in pink. Below it, there is a message in Japanese: 'ここでしか手に入らない NFT漫画プロジェクト限定 作品グッズをチェック' followed by a green checkmark icon. At the bottom, the date '2026.05.13 (水)' and the announcement 'NFT漫画プロジェクトの作家描き下ろしグッズを集めた公式オンラインストアを公開' are written in white.

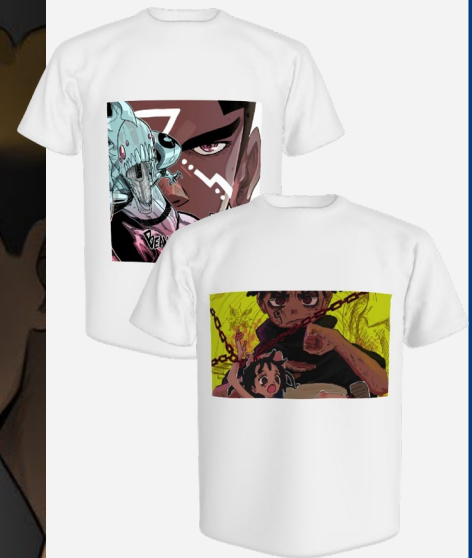
**INO Fine
GOODS STORE**

ここでしか手に入らない
NFT漫画プロジェクト限定
作品グッズをチェック

2026.05.13 (水) NFT漫画プロジェクトの作家描き下ろし
グッズを集めた公式オンラインストアを公開

NFT漫画プロジェクト「NFT MANGA PROJECT in AFRICA」開始

NFT事業の取り組みとして、アフリカのクリエイターと連携した「NFT MANGA PROJECT in AFRICA」を開始しました。本プロジェクトではNFT漫画作品の販売に加え、作品IPを活用したデジタルコンテンツやグッズ展開を推進します。NFTを活用したクリエイター支援とコンテンツビジネスの創出を通じ、グローバルなWeb3コンテンツ市場の開拓を目指します。



▶特設サイトはこちら

<https://zaif-ino.com/media/nft-manga-africa-lp/>

審査制NFTローンチパッド「INO Fine」へブランド刷新

当社子会社カイカフィナンシャルホールディングスが運営する審査制NFTローンチパッド「Zaif INO」は、サービス名称を「INO Fine」へ変更しました。NFT販売に加え、クリエイターのインキュベーションやグローバルプロジェクト支援など事業領域を拡大しており、ブランド刷新を通じてWeb3時代における新たな価値創出プラットフォームとしてさらなる成長を目指します。

INFORMATION

サービス名称変更のお知らせ

 ▶ 

2026年2月13日(金)

NFTカード活用事例の展開

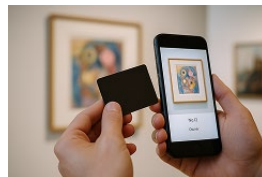
当社はWeb3のパイオニアとして、NFTを活用した多様なソリューションを展開してきました。これまでに蓄積したノウハウを活かし、新たにNFTカードを活用したサービスの提供を開始しました。本サービスは、NFTカードを通じてファンとの接点を強化し、ファンマーケティングの高度化・加速を支援するものです。

ラグジュアリー



高級時計やバッグに同梱されたカードをタッチするだけで正規品かどうかわかる。転売時も一瞬で権利移転。

アート&コレクション



作品画像とエディション番号をスマホ表示。安心して売買でき、作家にも収益が循環。

保証・公的書類



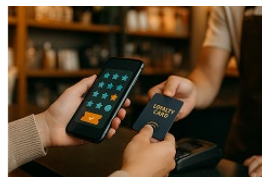
車両所有権や家電保証をカードに集約。名義変更・整備履歴の更新もスマホで完結。

会員制サービス



レストランやホテルで提示すれば即チェックイン。行けなくなった会員権は譲渡して資産化。

ロイヤリティ/小売



ユーザーが来店したり購入スタンプを集めるとクーポンが自動発行。お客様に選ばれるブランドへ。

イベント&チケット



入場ゲートはワンタッチ。カードに限定ライブ映像が自動追加され"デジタル記念品"に。

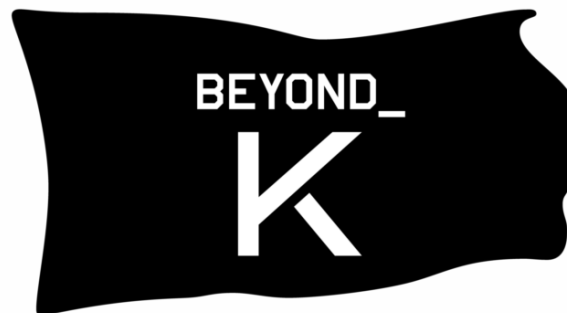
自治体との連携を加速

介護DX事業においては、自治体との連携を通じた介護現場のDX支援を推進しております。江戸川区での導入率62%達成に加え、北区・杉並区では関連事業を2年連続で受託しました。全国28自治体32地域・2,000事業所超の導入支援実績を活かし、介護DXの社会実装を加速してまいります。



ともに、生きる。
江戸川区

江戸川区にて「ケアプランデータ連携システム」導入率62%を達成



きたいを超える東京北区

「ケアプランデータ連携システム活用促進事業」を2年連続受託

～全国28自治体32地域・2,000事業所超の導入支援実績を活かし、介護現場のDX推進を継続～



「ケアプランデータ連携システム活用促進事業」を2年連続受託

～全国28自治体32地域・2,000事業所超の導入支援実績を活かし、介護現場のDX推進を継続～

内閣官房「デジタル行財政改革会議 課題発掘対話（第10回）」に参加

善光総研は、内閣官房開催の「デジタル行財政改革会議 課題発掘対話」に参加し、介護現場の生産性向上について提言しました。ICT・AI・介護ロボットの活用、KPI・ダッシュボードによる可視化、データ連携基盤の整備などが議論されました。介護現場への伴走支援やDXプラットフォーム事業で培った知見を活かし、介護DXの推進に取り組んでまいります。



対日理解促進交流プログラムJENESYS

株式会社善光総合研究所は、2026年3月12日に株式会社ビーブリッド主催のシンポジウム「海外展開を見据えた介護テクノロジーの研究開発」に登壇いたします。本シンポジウムでは、日本における介護テクノロジーの研究開発や社会実装の事例が紹介され、当社は海外展開を視野に入れた研究開発の取り組みについて紹介する予定です。



補足説明

Appendix

01

02

03

04

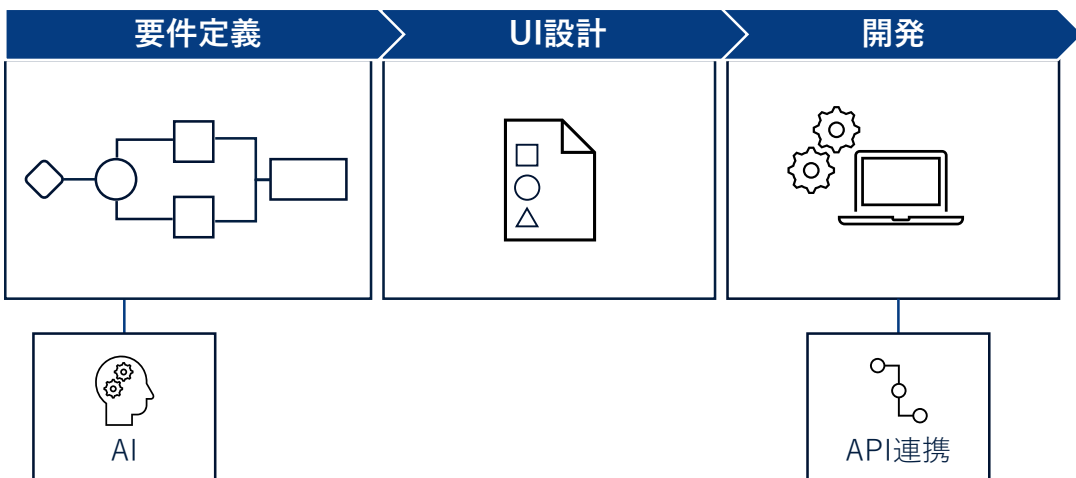
05

06

ITサービス事業の成長エンジン「DXソリューション」について

2024年10月期末より始動したDXソリューションサービスは、収益の柱であるITサービス事業における成長ドライバーとして位置付けております。DXソリューションサービスを起点として、顧客の根本課題を把握することで従来以上の価値を顧客に提供できるものと考えております。

PEGAのソリューションを活用して
クライアントとの業務フローを包括して改善



HCLのソリューションを
クライアントとのニーズに応じて導入



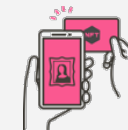
営業体制の強化や既存顧客との取引拡大、新規案件獲得により収益機会の拡大に取り組む

金融サービス事業について

当社の金融サービス事業は一貫してWeb3領域における新規事業の開拓を行ってまいりました。審査制NFTローンチパッド「INO Fine」の運営および、自社発行暗号資産「カイカコイン」を活用したサービスの展開などを行っております。今後、INO Fineを中心に事業を拡大するとともに、カイカコインのユーティリティを向上させることで、Web3事業の成長を図ってまいります。



INO Fine会員特典



Now Available



電子書籍読み放題

Now Preparing



協賛店で特典獲得



特別なイベントに招待



特別なNFTを配布

金融サービス事業 - カイカコインについて※1

カイカコインは、当社が発行するイーサリアムネットワーク上のERC20規格に準拠した暗号資産で、2023年にはPolygon対応を完了し、マルチチェーン化を実現しました。現在は国内暗号資産交換所Zaifに上場しており、8年に及ぶ運用実績を有します。当社は上場企業としての責任のもと、活用シーンの拡大を通じてカイカコインの価値向上に取り組んでまいります。

カイカコイン発行状況

| | |
|--------|-------------|
| 発行済枚数 | 300百万CICC |
| 上場取引市場 | Zaif(国内) |
| 時価総額※2 | 150百万円 |
| 取引価格※2 | 0.5JPY/CICC |

1. 本頁記載の内容は情報の提供を目的としており、暗号資産の投資勧誘を行うものではないことをご了承ください。
2. 2026年6月12日現在の時価、及び現時価を参考に算出

IoT関連事業の製品紹介

ネクスは、通信技術を基盤としたテクノロジーソリューションを展開し、産業機器の遠隔監視や重要インフラのバックアップ用途で信頼されるデータ通信端末を主力としています。テレマティクス事業では、OBD II 端末を活用した車両データにより安全運転指導や業務効率化を支援。さらにエッジAI領域に注力し、画像解析や5G/RedCap対応製品を通じてDXを推進しています。

データ通信端末



「インターネット接続機器」に留まらず、社会インフラ産業機器を支える「止まらない通信」を支えています。

- 複合機の遠隔監視
トナー残量や故障予兆をメーカーへ送信
- 重要インフラのバックアップ
ATM、POSレジ、データセンターなど
- 高セキュリティテレワーク環境実現

テレマティクス



自動車のOBD II コネクタに接続する専用端末を提供し、車両情報をクラウドへ送信します。

- 社用車、レンタカー、リース車両の状況をクラウドへ記録します。
- 安全運転指導
急ブレーキ、急発進、急ハンドルなどを検知してクラウドへ記録
 - 車両管理
走行ルート、アイドリング状況を記録

AI・受託開発



「エッジAI」機器開発、顧客要望による「専門端末開発」を行います。

- カメラ映像などをクラウドに送る前に、エッジAIにより処理を行います。
- 鉄道の混雑検知
車両ごとの混雑状況の算出
 - 人流解析
商業施設での顧客属性の解析
 - 体験型デジタルサイネージ
属性に応じたコンテンツの配信

株式会社善光総合研究所の事業概要

善光総合研究所は、介護現場のDX化推進を目的として、現場起点で開発された介護アプリケーション「SCOP」の開発・販売等を行っており、すでに1,000以上の介護施設様にご利用いただいております。当社が得意とするAI、ブロックチェーンと、ネクスのIoT通信技術を融合することで、SCOPをさらに高度化し、介護現場の業務効率向上と付加価値創出を図ってまいります。

スマート介護プラットフォームの次世代化

善光総研が開発提供する介護現場の業務効率化及び記録業務のデジタル化を実現する総合介護ソフトウェアである「SCOP」プラットフォームをベースに、当社グループのブロックチェーン、IoT通信技術を組み込み、「介護機器データ+利用者記録+施設運営データ」を統合管理し、トークンインセンティブやサービス価値可視化モデルを構築。

施設向けIoT/通信ソリューション提供

当社グループが手掛けるIoT、M2M及び5G通信モジュール等を、善光総研が運営する、利用者の行動分析を行うセンサー機器や利用者の移乗を助ける介護ロボット機器などの実証環境「Care Tech ZenkoukaiLab」に導入・実証。見守りセンサー等で取得したデータをセキュアな通信環境によりクラウドに集約し、データ分析可能とするソリューションを介護現場へ展開。

金融サービス+介護サービスパッケージ

高齢化社会において、サービス利用者が安心かつ快適に使える施設が持続的に運営できるような仕組みとして、当社グループのデジタル金融のノウハウを活かした支払い・報酬・人事評価連動のインセンティブ体系などを善光総研と研究。



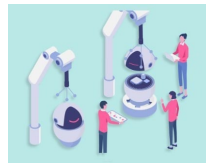
介護DX事業



デジタル中核
人材育成事業



コンサルティング
事業



介護機器メーカー
開発支援事業

データ分析・AI活用による価値提供

当社グループのDX・ビッグデータ技術と善光総研の介護現場知見で、介護施設でIoTにより取得されるリアルタイムデータ（介護機器からの計測データ/介護記録データなど）を用い、AIモデルによる業務改善・予測（人材配置、転倒予防、入浴支援最適化など）を共同開発し、善光総研の顧客に販売。

介護向けコンサルティング事業の体制強化

当社グループのIT実装から運用まで一貫通貫で対応可能なコンサルタント部隊と、善光総研が持つ介護事業所経営改善・DXコンサルティングのノウハウ（スマート介護士育成カリキュラム等）が連携。これにより、システム導入にとどまらない組織変革（BPR）支援の体制を強化し、コンサルティングサービスの顧客層を拡大。

本資料について

- 本資料は、株式会社CAICA DIGITAL（以下、当社）の決算情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行って頂きますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。
- 本資料には、当社および連結子会社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
- 本資料は一部(百万円)または(千円)以下を切り捨てて掲載しております。一方、前期比等については切捨て前の数字を参照し任意の位で四捨五入をした上で算出した数値を掲載しております。